

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600141	事業の開始年月日	平成20年12月1日
		指定年月日	平成20年12月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 さがみ湖		
所在地	(252-0171) 神奈川県相模原市緑区与瀬719-3		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果 市町村受理日	平成23年8月30日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりのできる力を大切に、共に生活をしています。 できるだけ長期、グループホームでの生活を維持できるように協力医療機関との連携体制、ホームドクターの往診、訪問歯科診療、調剤薬局からの指導・助言等々において医療面の充実を図っています。 また日々の散歩、地域の行事にも積極的に参加して近隣住民の皆様とのコミュニケーションをとっていくなど、活気ある生活をしていただいております。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年4月19日	評価機関 評価決定日	平成23年8月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所はJR中央線相模湖駅から徒歩7分、国道20号線を一筋南に入った閑静な住宅街にある。周辺は、緑が多く、リビングや居室からは相模湖の湖面を望むことができる自然に恵まれた環境である。木造2階建ての建物は当初よりグループホームとして設計されており、バリアフリー構造で、リビングや廊下の手すりも適切に配置されている。南側の大きな窓から十分な採光を取り入れ、リビングは明るくゆったりとしている。敷地内に菜園を有し、土いじりの好きな利用者と職員が一緒に、野菜の栽培、収穫を楽しんでいる。 【医療連携の充実】 協力病院の医師がホームドクターとして、毎週往診を実施している。また同医院と24時間連絡体制を確保し、医療連携体制加算を受けている。薬剤師による居宅療養管理指導が行われており、服薬の管理・指導や薬剤に関するアドバイスを受けている。加えて訪問歯科医による訪問治療が毎週行われるなど医療面は充実している。これらの医療情報は個別のファイルで管理し、職員、家族間で共有され、介護計画に反映している。 【地域交流の推進】 自治会に加入し、夏祭り、どんど焼き、地域清掃、防災訓練などの行事に参加している。また事業所主催の敬老会に地域住民を招くなど、利用者、職員と地域住民が双方向で交流を深めている。手品、紙芝居、消防署員による管楽器演奏など地域ボランティアの来訪も頻繁である。その他、地元高校福祉科の実習生を受け入れるなど積極的に地域交流を図っている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花物語 さがみ湖
ユニット名	1階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「事業所の理念」を職場（現場）や廊下の掲示板に掲げ、管理者・職員がいつでも意識付けをできるように環境を整え、またスタッフ会議等を通じて理念を共有し、実践につなげて行けるよう努めている。	7項目からなる事業所の独自理念を掲げ、利用者の地域生活継続を支援し、地域との関係強化を図っている。職員は共に考え、利用者と共に楽しむことを介護現場で実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、どんど焼きなどスタッフとともに入居者の方も参加。また、敬老会にご近所の方を招待し、一緒に祝っていただいた。	自治会に加入し、夏祭り、地域清掃などの行事に参加している。事業所主催の敬老会などに、地域住民を招いている。ボランティアの来訪も頻繁である。地元高校福祉科の実習生の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動を通じて、地域の方とのふれあいを増やし、ボランティアの方や見学の方の訪問をオープンにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動の様子を報告し、出席者より意見をうかがい、事業所での活動に反映させている。	2ヶ月に1回開催している。近隣の住民、消防署職員などの参加も得られており、幅広い情報交換の場となっている。消防署職員による防災指導講習会を織り込むなどの工夫もなされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員の方に、運営会議のメンバーとして出席してもらい意見交換をしている。	区の生活支援課と生活保護受給中の利用者の受け入れ相談、情報交換を行っている。市が主催する「さがみはら・ふれあいハートポイント事業」に参加し、傾聴ボランティアを受け入れている。県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修などに参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束の具体的な行為」の意味を正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組み、実践している。	身体拘束をしないケアを宣言し、研修を充実させ、実践している。ベッド柵などを避けるため赤外線離床センサーを使用している利用者もいる。玄関は日中施錠していないが、ユニットの出入り口は安全面を考慮し、パスワードで開錠するように設定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はスタッフ全員が相互に注意を払い、見過ごしが起きないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にこの制度や事業により生活されている利用者があるので、実践的に学び関係者とも話をさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケアプラン作成時等にご家族と連絡、説明を行い、ご理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、地域の方、ご家族、ご利用者の意見をうかがう機会をもつ。	家族の来訪時には、職員が積極的に声を掛け、意見や要望を聞いている。地元の花火大会などの行事の後に家族と意見交換を行っている。メールを利用している家族もいる。出された意見が、おやつ作りなどに反映されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を開催することにより、職員の意見を聞き、運営に反映させている。	月1回のスタッフ会議で、職員からの行事企画や、サービスに対する提案などを検討し運営に反映させている。年1回、施設長、職員面談を実施し、意見、要望を聴取している。「疑問は仲間とともに考えます」を理念の一つとし、施設長が率先し実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の所属長が全職員を対象に個別面談をして、諸種の要望（勤務状況・努力・実績・給与・職場環境）を聞き、その報告は代表者に届くようになっており、速やかに改善・整備に結びつくように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での個々の研修（OJT）は随時、行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所として他のグループホーム等を見学させてもらえる機会を管理者がつくっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活ができるための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント内容についても、家族の意見・考え・要望をお聞きしてできるだけ多く具現化できるようにより良い関係づくりに努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の様子や状況を十分に把握し、本人と家族と話し合い、必要としている支援を見極める。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が手伝っていただける事を見つけ、一緒に生活をともにできる環境を作り出している。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、日常生活の様子を話し、お互いご利用者を支えていく関係を築いている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしている場所、それに合った所へのドライブや昔の話を聴く時間を設けるなど、支援に努めている。	利用者の馴染みの場所にドライブしたり、家族の協力を得て墓参りをするなどの支援をしている。入居前の主治医に、家族とともに通院することを楽しみにしている利用者もいる。友人への電話や、年賀状書きなどの支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格と利用者同士の関係の把握をし、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の様子、その後の経過をご家族と連絡を取り合っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向など暮らし方の希望を交えて把握に努めている。	職員は、利用者の日常の行動や会話の中から希望や意向を把握するよう努めている。意向を表すことが困難な利用者については、昔住んでんでいた場所や時代のことを話題にし、気分が良くなったところで、さりげなく聞き取るなどの工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経過は、スタッフ同士の話し合いにて経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態を把握し、一日の過ごし方をスタッフで話し合ったり、申し送りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に際して、利用者に係わる関係者（医師・家族・介護職員）との相談において作成している。	月1回のケアカンファレンスで、介護計画書の作成、見直しを実施している。モニタリング表、受診報告書などの医療情報、家族の意向を反映させた、総合的な介護計画としている。通常6ヶ月に1回の見直しとし、状態に変化が生じた場合は都度の見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りノートにより実践、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	応じた柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用し、暮らしの中に取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、ホームDr、訪問歯科診療医と連携をとりながら、適切な医療が受けられるように支援している。	入居前の主治医を継続している利用者もいるが、大半は協力医を主治医としている。同医師による毎週の往診が実施され、必要に応じ専門医への紹介なども行われている。歯科医による訪問治療が週1回実施されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りにてスタッフ同士の情報を共有し、看護師、ホームドクターに連絡・相談して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努め、早期退院できるように相談し、退院後の受け入れ体制を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族とご希望を十分に話し合いをし、事業所の医療連携体制をご理解いただきスタッフ一同で考え方を共有して支援に取り組んでいる。	入居契約時に「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」を取り交わしている。重度化した場合は指針に従って、家族と話し合いを重ね、事業所での看取りも含め、利用者にとって最良の選択を行うとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていないが、緊急時にはホームドクターに連絡して指示を仰ぎ、同時に施設長に報告・連絡して対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に所轄消防署の指導を受け、利用者、職員、そして近隣住民の皆様にも参加していただき、消防・防災訓練を行っている。	消防署、地域住民の協力の下、年2回の防災訓練を実施している。また、夜間想定訓練も実施している。非常食、飲料水、その他備品の備蓄がある。自治会の主催する防災訓練にも参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、誇りなどを損ねない言葉遣い、話しかけを心がけている。	理念にのっとり笑顔をもって親しみのある、丁寧な言葉かけを心がけている。職員の言葉づかいなどが不適切な場合は、施設長や管理者が個別に注意している。接遇研修やOJTでプライバシーの確保を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように本人が理解できる言葉かけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容に定期的に来てもらい実施している。自由に本人がおしゃれを楽しむことができるように支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備、片付けなど協力し合う。行事や季節に合った食事を計画し、食べていただく。	献立は、時折利用者に何が食べたいかを聞き、決めることもある。利用者はできる範囲で、準備や後片付けを手伝っている。行事食は職員が企画してケータリングなどを利用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医より、個々に注意点をもらい、それに沿って声かけ、援助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に基づき、パターンを把握し、自立に向けトイレでの排泄援助を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者個々に分析された排泄パターンを把握して、支援している。失敗した場合も他の人に分からないようさりげなく、迅速に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、薬物での対応を行い、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決めているが、本人の希望やタイミングを合わせながら、楽しく入浴できるように援助している。	入浴は、原則として週2、3回である。入浴時間は昼食時間帯を除いて10時頃から16時過ぎまでで、時間内であれば好きな時に入浴することができる。入浴したくない利用者には時間を置いて繰り返し誘ったり、医師や看護師に声かけしてもらっている。菖蒲湯、柚子湯なども楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、個人の休息時間の支援を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	普段の様子、変化を注意深く観察し、訪問医療担当医師と薬剤師が情報交換を密にできるように連絡し、努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事を見つけ出し、役割を持った生活をしてもらえるよう支援している。嗜好品についても、回数を決めるなどして気分転換できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良好な時は施設近くでの散歩、施設内での外気浴を行う。ご家族との外出は積極的に支援している。	毎週火、金曜日の午後を散歩にあてている。散歩の途中で近所の庭の花を觀賞したり、花を頂いたりしている。車椅子の利用者にも対応している。駅前の衣料店や雑貨屋に買い物に行くこともある。外食やハイキングには自社所有のマイクロバスなどを利用している。家族に、利用者と外出することを勧めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避けるために、現在所持している人はいない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは支援、援助している。年賀はがきを書いてご家族に出し、返事をいただいている。電話についても、ご本人の訴え時家族の都合のつく時間に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な刺激は気をつけ、居心地良い環境を作っている。季節の花季節ごとの行事の展示物を飾る工夫をしている。	バリアフリー構造で、リビングや廊下の手すりも適切に配置されている。南側の大きな窓から十分な採光を取り入れ、リビングは明るくゆったりとしている。利用者の生けた季節の花をテーブルに飾って季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室は、その人それぞれが過ごしやすい様に家具のセッティングをしてもらう。共同空間はトラブルが生じない様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族が用意された家具を使用し、居心地の良い居室で過ごされている。	居室は、利用者と家族が自由にレイアウトしている。使い慣れたたんす、鏡台などが配置され、マスコット、写真、絵画などが自由に飾られており、利用者が居心地良く暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でできることはやっていただけるよう、安全面に配慮している。		



目標達成計画

事業所名 花物語 さがみ湖

作成日 平成 23 年 8 月 30 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	季節行事には参加しているが、交流の機会が少ない	地域住民との触れ合いの機会を幅広く増やす	近隣の幼稚園、小・中・高の生徒の皆さんとの様々な交流・行事に参加。又団体組織との交流（依頼・働き掛けをして行く）	一年
2	49 18	日常的な外出の機会があまりなかった （施設の周囲を巡る散歩程度ぐらいでしたので）	いつもとは異なる環境で心地良く五感を刺激し、生き生きとした生活をしていただく時間・場を提供する	毎月一回はピクニック（外食も含む）に出掛けられるように事前計画を立て実施する 自社所有のマイクロバスを活用する	一年

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2）項目数が足りない場合は、行を追加すること。